

FD 関連研修会 参加報告書

主 催	島根大学教育開発センター・山陰地区 FD 連絡協議会
企画名称・テーマ	初年次教育相互研修会 2011 「グループ学習の進め方」
開催日〈会場〉	2011 年 11 月 25 日 (金) 〈島根大学 松江キャンパス〉
参加者所属	文学部 中国学科

参加報告

<主旨説明／鹿住大助氏>

グループ学習のメリットは、問題解決に必要な事実やアイデアに関する情報を出し合っ
て、互いの創意を発揮することにある。改革の方向性は、「何を教えるか」よりも「何が
できるようになるか」。

<基調講演>

安永悟氏「協同による活動性の高い授業づくり」。

没頭できる授業を仕組む。ペアを組ませる、机なし、距離は短く、異質性の高い人たち
を集めると意見が出やすい。教授学習ユニットを理解する（内容を自分の言葉で言い換える）。
グループ学習と、協同学習は違う。自分が理解するのは、自分の責任だが、隣の人が
理解するのも自分の責任。協同学習の基本要素。Kagan の定義：①相互依存（肯定的相互
依存の成立）、②個人の責任（個人の責任が明確）、③平等性（参加の平等の確保）、④同時
性（同時進行の相互交流、目に見える相互活動）。上記の 4 要素を満たす時のみ協同学習と
呼ぶ。

<事例報告①>

渡部望氏「フレッシュマン・フィールド・セミナーの構想」

大学生が地域に出て学習する。現場から学ぶ、言わば水の中に放り込んで泳ぎ方を学ん
でもらうように。昔は、自ずと学んでくれたが、今は大学生が変容してしまった。

<事例報告②>

小林和広氏「屋上緑化での栽培・調査を通したグループ活動」

期待したほど協調性はなかった。学生の認識は、リーダーの言うことを聞く、である。
やりたくもないことを、教員が無理にさせている、と考えている。早い段階での脱落者が
減少した、グループ学習/活動の評価は難しい。

<全体討論>

大学では、協同学習は非効率的ではないか。答え：一方的な授業が 10 とすれば、6 しか
教えられないのは事実だろうが、定着率に着目した場合や、学生が主体的に学べたか、を
見た場合、間違いなく成果が大きい。法科大学院も同じ。非効率的に見えるが、トータル
ではそうではない。

グループ学習は評価が難しいが、グループ学習に積極的であった学生は評価されるのか。
答え：個人がどれだけ伸びたか、を評価しないと社会に出て困る。

ピア・レビュー：客観的に評価する力を学生にもつけてほしい、という目的を持って評
価させる。お手伝いさせるのが意図ではない。

発達障害がある学生：昔は、隠したが、最近は、学生間で自己開示し、自分たちでつな
がるようにしているので、そうさせている。学生に見えない所で、カウンセラーと情報交
換はしている。プロの目を通して判断してもらうことは重要。

以上